

榴岡地区 社協だより

第 19 号

(2021 年 3 月 25 日)

榴岡地区社会福祉協議会

発行責任者 末永 榮六

ゴミ集積所の環境改善について



榴岡地区社会福祉協議会
会長 末永 榮六

今年度はコロナ禍により、社会福祉協議会の活動もだいぶ制限された中、感染防止対策に万全を期しながら、できる限り活動をしてまいりました。

日頃より、地域の皆様方には多大なるご支援、ご協力を賜り心から感謝申し上げます。

さて、皆様方は町内の「ゴミ集積所」の周りが散乱している状況を幾度となく目にしている事と思います。誰の仕業？大半はカラスの仕業。カラスの朝は早く、夏場は午前四時頃、冬場は午前六時頃にゴミ集積所に集まり食べ物を漁っています。その行動を観察してみると、ごみ袋の中身を見通しているかのように好物の入っているゴミ袋に乗り、クチバシで袋を突き破り袋の中から餌を取り出して食べている。食べ尽くすまで居座り、結果、集積所はゴミが散乱し、その後始末は町内会の方々、特に衛生担当の方を困らせている。

街に住み着いているカラスは「ハシブトガラス」が大半である。大きな嘴を持ちその「突つき力」は強く、市指定のゴミ袋などは簡単に穴をあけ、餌になるゴミを引っ張り出す。

そのような状況のゴミ集積所を環境改善した実例を紹介します。

①家庭ゴミ集積所のネットを三十mm目→五mm目にかえた。

②営業用ゴミ集積所は三十mm目のネットの内側をブルーシートでゴミ全体を覆い、中身が見えないように工夫をした。

その結果、二か所共カラスが寄り付かなくなり、成果が得られました。

今、ゴミ集積所は不法投棄・営業ごみの混入・指定された収集日を守らない等々、問題は個人のモラルに起因しています。

行政当局と手を携え、地域を「より住みよい町づくり」になるように目指したいと思います。

伝承させたい「まちを愛する心」



仙台市立榴岡小学校
校長 廣瀬 清文

平素から、榴岡地区社会福祉協議会の皆様方が「誰もが安心して暮らすことのできる福祉のまちづくり」を目指し、さまざまな取り組みに御尽力されてますことに対し、心より敬意を表します。

人々のライフスタイルが大きく変化し、地域の人間関係の希薄化等が進みつつある中、全国各地で災害が起こるたびに、地域の役割や住民による福祉活動の重要性を、自然界から指摘されているような気がいたします。

とりわけ東日本大震災は、榴岡地区にとっても大きな試練になったと聞いております。榴岡地区が震災を乗り越え、今なお未来へ向けて進化し続けているまちであることは、先人たちから今に至る皆様方が、「まちを愛する心」を醸成し、「共助の心」を受け継がれてきた賜であると感じております。

榴岡地区社会福祉協議会の皆様方には、毎年、本校の一年生を対象に「ふれあいいきいきサロン」を行っていただいております。一年生の子どもたちが、地域にお住いのおじいちゃん、おばあちゃんと一緒に楽しく触れ合えるひとは、本校にとって重要な教育活動の一つです。これまでの記録写真に見られる子どもたちのいきいきとした表情から、本校が目指す「優しい心」を育ませる絶好の機会と感じておりました。しかしながら、今年度はコロナ禍のため開催を断念せざるを得ず、大変残念でなりません。必ずや「ふれあいいきいきサロン」を復活させることによって、この榴岡地区に根付く「まちを愛する心」や「共助の心」を、次世代を担う子どもたちへ引き継がせていきたいと考えております。

今後も、榴岡地区社会福祉協議会の皆様方と心を一つに、地域と共に歩む学校として、力を尽くしてまいりたいと存じます。

福祉委員研修会

今年度は福岡地区社協として、地域福祉活動を更に充実・推進していけるように、福祉委員の共通理解を深めるための研修会を実施しました。区社協のコミュニティソーシャルワーカーの方々に講師となつて頂き、地域での活動をより円滑に進められるよう福祉委員としての役割や大切にしたいこと等について、理解を深めました。

地域の繋がりを大切にし、皆さんの声に耳を傾けながら、『地域で安心して、いきいきと暮らせる福祉のまちづくり』につなげられるように、支え合い・助け合い・見守り等、日常の活動に活かしていこうと考えています。
(領厚)



コミュニティソーシャルワーカーの皆さん
(左より 伊藤さん、柳谷さん、鎌田さん)



ふれあい訪問



コロナ禍により外での出陣式

曇り空ながら穏やかな十二月十一日、福岡地区日赤奉仕団と社会福祉協議会共催の「ふれあい訪問」を実施いたしました。五八五名の対象の方々へ、心ばかりのお菓子箱をお渡ししながら、体調や日頃の生活の様子をお聴きすることができました。

笑顔の中にも、最近病気がちで心配を漏らされる方、また元気にデイサービスや健康教室へ通われている方と、お顔を見ながら意義のある触れ合いをさせて頂きました。人生の大先輩からの円熟味を帯びたお話にも、こちらがほっこり！大事な活動であると肌身で感じ継続を!!と強く思いました。

(齋藤)



赤い羽根共同募金助成事業

お茶っこサロン

開催日時 (10時～11時頃)



豪華賞品かけてジャンケンポン!



ハラハラドキドキ



おみやげはマミーさんの手作りおもちゃ



童心に帰って賞品ゲット!



保健師さんの熱中症予防のお話



華麗な舞に一同ウットリ!



ささやかなクリスマスプレゼント



新年会は「おはぎ」のお土産付き



嶽間沢さんの手作りカルタに全集中!!

- 榴ヶ岡市民センター
偶数月 第1金曜日
- 駅東交流センター
(明寿会共催)
奇数月 第2金曜日
- 宮城野市営住宅
5月、8月、11月、2月の
第4金曜日

健康体操教室

社協主催 「げんき榴岡」

- 駅東交流センター
- 毎月 第3金曜日 10時～

自主活動 「いきいき宮城野」

- 宮城野町民館
- 毎月 第2木曜日 10時～

自主活動 「サロンあけぼの」

- 小田原二十二町内会集会所
- 毎月 第3火曜日 13時半～



「げんき榴岡」の永年の活動に対し仙台市保健所長から表彰されました。また「サロン・あけぼの」は昨年度に表彰されています。



編集後記

令和二年、本来であれば東京オリンピック・パラリンピックの開催で活気に満ちた年になるはずでした。二月頃からのコロナ禍に依り、私達の活動も前半は中止、それ以降も人数の制限・時間の短縮・消毒・検温等々。制限のある中、活動にご参加いただきました皆様のお陰で「社協だより」を発行することができました。ありがとうございます。来期はコロナが終息することを願うばかりです。(山口)

編集委員

末永 榮六、吉田 多恵、田中 朋子、齋藤まゆみ、山口 博子、嶺岸美恵子、星 洋子



ご協力ありがとうございます。
多くの皆様のご支援を
お待ちしております。

■ 仙台市東口支店様
■ 仙台市東口支店様
■ 七十七銀行様
■ トータルサービス(株)様
■ 福司 憲道様
■ 関口 秀和様
■ 蒔谷 宗勝様
■ (株)ユアテック様

社会福祉協議会
会費高額納入者
(五千円以上)

